

<全体分析>

試験時間

120分

解答形式

客観式, 記述式

分量・難易 (前年比較) 分量 (減少・**変化なし**・増加) 難易 (易化・**変化なし**・難化)

出題の特徴

読解総合：英文和訳, 内容説明 (部分要約), 空所補充 (適語選択)

英作文：自由英作文 (会話文) を含む

その他トピックス

読解問題において, 昨年度に続いて空所補充問題が出題されるとともに, 内容説明問題として部分要約的な問題が出題された。指示語の内容説明の出題はなくなった。英作文では, 和文英訳に加えて, 対話文を用いた自由英作文が1題出題された。

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	読解総合	「歴史の二つの見方」 (645words)	(1) 第1文の that は a hole を先行詞とする関係代名詞。connected to と independent of がともに the structure に接続する。the structure は教会の建物のこと。第2文は focus only on A, not on B, nor on C 「Aにのみ焦点を当て, BにもCにも焦点を当てない」という構造を読み取ることがポイント。To extend the symbolic story はコロン (:) 以下全文を支配している。make(V) the soil...(O) a part...(C)という構造もつかむ必要がある。within は within the hole のこと。  (2) the middle は「(西洋人的な目から見た)歴史の本流 (を形作る人々, 文化)」, the margins は「歴史の傍流 (を形作る人々, 文化)」を指すが, 設問の指示に「どのようなことを指しているか」「新大陸発見の事例を用いて」という条件があるので, 上記2つの立場を踏まえて, 最終2パラグラフの内容をそれぞれ要約することになる。まとめる範囲が広い割には字数制限が厳しく, 指示通りにまとめるのはかなり難しい。	やや難

II	読解総合	「人間の記憶と いう謎」 (413words)	客観式の空所補充問題が5か所、下線部和訳問題が2題の構成。空所補充問題は昨年度に引き続いての出題だが、語形変化を伴う動詞の空所補充からは形式が変わった。基本的には前後の文脈把握をもとに解答することが求められており、その文脈把握自体は容易。ただし、選択肢内にはやや語いレベルの高い語も含まれていることや、same の語法の知識も問われていることを考え合わせると、文脈把握と選択肢内の単語の語い・語法の両面から考えなければ、全問正解することはできなかつたであろう。 下線部和訳問題は、文構造にそれほどの複雑さはなく全体的な訳出にはそれほど苦勞しないと思われる。まずは標準的な語い力と熟語表現の知識が定着していることが重要。そのうえで差がつくと思われる箇所を挙げていくと、(a)は and not others と often with little apparent reason の処理、(b)は in spite of ... at its disposal の処理と enigma の語義の推測精度であろう。	標準
III	英作文	「パン作り」	「生地」「膨らむ」といった語いレベルでの問題があるものの、構文そのものは比較的容易に思いつくであろう。「…が売りの家電製品」の部分では「売り」の表現に注意したい。	標準
IV	英作文	「積ん読」	(1)は Ken の最初の発言に加えて、「積ん読」をさらに説明する英文を、(2)には「積ん読」に関する Ken の考えを書く。字数に関する指示が全くないが、解答用紙の大きさや配点から考えると、それぞれ40語前後であろう。	標準

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

読解問題では本年は大問Ⅰで和訳以外にパラグラフ要約問題が出題された。前年度のように問の条件に該当する箇所をほぼ和訳するという解答の仕方とは異なり、かなり長いパラグラフを、出題者の指示に従ってまとめる問題であった。従来の精読演習に加えて、このような要約の練習が今後は必要となる。一方、大問Ⅱの空所補充は、今年は語形変化を問われることもなく、比較的解答は容易であり、普通の精読力があれば十分解答可能である。和訳問題も特に例年と変わらず、むしろ解答しやすいものである。英文のテイスト自体は、2題とも基本的に従来の英文和訳問題のそれと変わっておらず、難しいものの興味深い内容である。従来型の精読問題の勉強法を大きく変える必要はなく、過去問に目を通すことにも十分意義はある。精読に加えて「まとめる」演習を今後は心がけたい。

英作文で新たに出題された、以前の東京大学の入試で見られた対話文完成型の自由英作文は、前後をよく読み、書く内容を確定したのち、おおむね40語前後でまとめることが求められる。今年は(1)が「(語句)説明」(2)が「意見」というフレームだった。この形式の問題では、書くべき内容を外すと、英語以前の段階で点がなくなってしまうので、注意が必要である。東京大学の過去問などを参考に、まず内容で減点されないように訓練することが必要である。積極的に添削指導を受けることが望ましい。

従来型の問題も相変わらず出題されているので、過去問研究も怠らないこと。